

岩村の歴史 ヒストリア

第3回

1、 仏橋

長宗我部元親の長男である信親が、天正14年(1586)に戸次川で戦死して、後継が決まらないので、元親は人を集め協議のうえ、4男の盛親に相続する議をいれた。その後当然



仏橋

農免道路の包末バス停横の仏橋。金地の中島仁司さんと包末の多田潤一さんが昔からここを「仏橋」と呼んでいるとの事でした。また金地出身の高野曾彦さんも、ここを流れる川は仏川(正式名称はゆるもと川だが地元の人には西の川ともいって)と教えてくれました。

また包末の安松一幸さんは農免道路が出来たまでは、仏橋は石の橋で太鼓橋であって、その昔は柳の木が生い茂り、文字通り少し不気味な場所だったようです。南国市教育委員会の発行している「小字図表」にも、仏橋から南東の小字は「仏橋」になっています。

包末に残る「仏橋」の秘話

海軍航空隊の慰霊碑・包末城跡も

の心情として、次男の親和も悶々のうちに世を去った。3男の親忠も京都へ行こうとしたが、諫められ中止した。そのうちに親忠は元親のため巧山寺に幽閉された。また親忠は久武内蔵介からも窮地に追われ、最後は盛親によって切腹をさせられた。

その親忠側の報告の使者と、盛親側の中止の使者とが会ったところが、仏川にかかる仏橋で

ある。地域の人々は歴史上の情念をこめて、仏返しの場合として話を受け継いでいる。

この話を聞いた徳川家康は「元親のような偉大な人物にも、盛親如き不義の子があるのか」と怒って土佐の国を没収した。

2、 慰霊碑

(元高知海軍航空隊)

元高知海軍航空隊第5分隊の

12名が、訓練中に空中で接触し、2機が墜落した。昭和19年10月14日のことで、死亡の場所は碑を建立したところから北東約50m離れたところにある。

3、 包末城跡

長宗我部時代の地検帳によると、包末土居城がある。包末のほぼ中西部に位置するところに、

包末の入交満宅の南西に位置する包末城跡。元吉家先祖の宮から北西に広がっていた。安松一幸さんの話によると、ここは戦のための城ではなく、馬などの「休憩所」として使用されていたらしい。



包末城跡

環状になって一部残っている。なお、東南端にある祠のような小さい宮があるが、これは元吉家の先祖として現在も祭祀している。

(この文章は故和田幸郎が『岩村ウォーキングコース』説明用に作成(未発表)したものを原文のまま掲載しています。

寄稿者・福船 和田真一